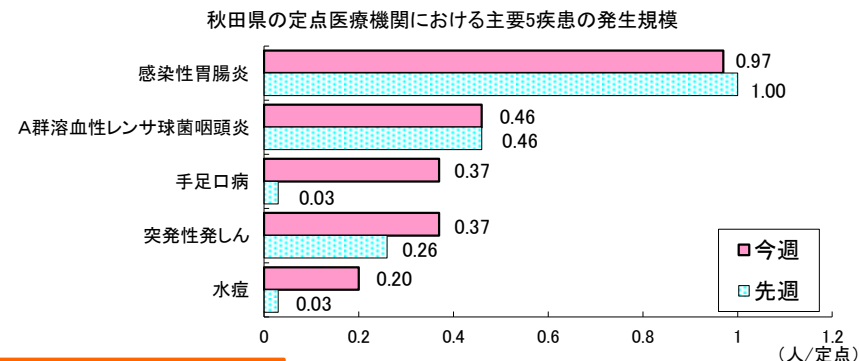




【第28週の発生動向】

< 定点把握対象疾患(週報)・前週比 >

1. 感染性胃腸炎は、県全体で3%減少しています。保健所別では、秋田市、大仙、横手、湯沢で増加、秋田中央で同規模、大館、北秋田、能代で減少しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で同規模です。保健所別では、秋田中央、由利本荘、横手で増加、秋田市、能代で同規模、大仙、湯沢で減少しています。
3. 手足口病は、県全体で12.3倍に増加しています。保健所別では、能代、大仙で増加、秋田市で減少しています。



発生報告

次回の週報は、2020年7月22日(水)に公表します。

< 五類定点対象疾患(週報) >

(人/定点)

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第27週	第28週	増減	第27週	第28週	増減	第27週	第28週	増減	第27週	第28週	増減	第27週	第28週	増減	第27週	第28週	増減	第27週	第28週	増減	第27週	第28週	増減	第27週	第28週	増減			
RSウイルス感染症		0.03	↗																							0.25	↗			
インフルエンザ																														
咽頭結膜熱	0.29	0.09	↘	0.71	0.29	↘	0.50		↘										0.25		↘				0.50	0.25	↘			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.46	0.46		0.29	0.29								0.33	0.33		1.25	1.50	↗	0.25	0.50	↗	1.25	1.00	↘	0.33	↗	0.50	↘		
感染性胃腸炎	1.00	0.97	↘	1.71	1.86	↗	1.00	0.50	↘	0.50		↘	3.67	1.67	↘	1.75	1.75					0.50	↗		1.00	↗	0.50	↗		
水痘	0.03	0.20	↗					1.25	↗				0.33		↘				0.25	↗				0.33	↗					
手足口病	0.03	0.37	↗	0.14		↘								0.33	↗							3.00	↗							
伝染性紅斑																														
突発性発しん	0.26	0.37	↗	0.57	0.57		0.25	0.75	↗		0.50	↗	0.33		↘				0.50	0.50				0.33	0.33		0.50	↗		
ヘルパンギーナ	0.03	0.03		0.14		↘		0.25	↗																					
流行性耳下腺炎	0.06	0.03	↘															0.50		↘						0.25	↗			
川崎病		0.03	↗																				0.33	↗						
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*								*	*				
流行性角結膜炎	0.14	0.14		0.33	0.33					*	*		*	*		*	*								*	*				
細菌性髄膜炎																*	*													
無菌性髄膜炎																*	*													
マイコプラズマ肺炎																*	*													
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*													
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)																*	*													

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。

「*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から3人、大館保健所管内から1人、報告されました。
- ・四類感染症のレジオネラ症が湯沢保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症の水痘(入院例に限る)が能代保健所管内から1人、梅毒が秋田市保健所管内から1人、由利本荘保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	1週-27週		28週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	8760	44	4
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	コレラ			
	細菌性赤痢	53		
	腸管出血性大腸菌感染症	831	13	
	腸チフス	17		
	パラチフス	7		
四類	E型肝炎	254	2	
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	77		
	エキノコックス症	8		
	黄熱			
	オウム病	4		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	3		
	キャサナル森林病			
	Q熱			
	狂犬病	1		
	コクシジオイデス症	3		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症	1		
	重症熱性血小板減少症候群	38		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
タニ媒介脳炎				
炭疽				

類型	疾患名	1週-27週		28週
		全国	秋田	秋田
四類	チクングニア熱	3		
	つつが虫病	101	8	
	デング熱	41		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	105		
	日本脳炎	1		
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	1		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ポツリヌス症	1		
	マラリア	12		
	野兎病			
	ライム病	7		
	リッサウイルス感染症			
	リフトバレー熱			
	類鼻疽			
	レジオネラ症	758	6	1
レプトスピラ症	1			
ロッキー山紅斑熱				
五類	アメーバ赤痢	307		
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	131	2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	822	6	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	15		
	急性脳炎	319	4	
	クリプトスポリジウム症	2		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	72	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	421	3	
	後天性免疫不全症候群	512	1	
	ジアルジア症	14		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	174		
	侵襲性髄膜炎菌感染症	11		
	侵襲性肺炎球菌感染症	1014	9	
	水痘(入院例に限る)	192	6	1
	先天性風しん症候群	1		
	梅毒	2923	32	2
	播種性クリプトコックス症	67	1	
	破傷風	52	1	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	69		
	百日咳	2564	9	
	風しん	83		
	麻しん	12		
薬剤耐性アシネトバクター感染症	3			
指定	新型コロナウイルス感染症			16

トピック

<梅毒の患者が増加しています>

梅毒は「梅毒トレポネーマ」という細菌を原因とし、主に性行為によって感染する疾患です。秋田県では、ここ数年患者報告数が増加しており、第28週現在で既に昨年の28人を上回る34人の患者が報告されています(表1)。全国的にも10年の間に梅毒の患者報告数が著しく増加しており、感染拡大が危惧されています。

■県内における発生状況

第28週までに報告のあった患者34人の男女比は、女性が11人(32.4%)、男性が23人(67.6%)でした。年代別では、男性は40~60代が約90%を占めているのに対し、女性は20~40代で患者が発生しています(図)。

■症状

梅毒は早期から晩期までのステージによって表2のような症状を呈します。

また、妊娠中の女性が梅毒に感染すると、胎盤を通じて胎児に感染し、死産や早産、新生児死亡、奇形(先天梅毒)が起こることがあるため、特に注意が必要です。

■治療における留意点

梅毒は、早期に抗菌薬による治療を開始すれば治せる病気です。感染が少しでも疑われる場合は、早めに泌尿器科・皮膚科・産婦人科等の医療機関を受診しましょう。ただし、治療が終了しても再び感染することがあります。感染が判明したらパートナーに必ず打ち明け、同時に治療を受けて、感染を繰り返さないようにすることが大切です。

表1 梅毒の患者報告数

西暦	全国(人)	秋田県(人)
2011	827	5
2012	875	6
2013	1,228	2
2014	1,661	2
2015	2,690	3
2016	4,575	9
2017	5,820	8
2018	7,001	16
2019	6,639	28
2020*	2,923	34

*全国は第27週、秋田県は第28週現在

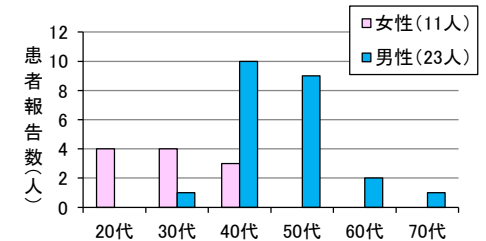


図 男女別年代別の患者報告数 (秋田県、第28週現在)

表2 梅毒のステージ別症状

時期	症状
早期	I期 感染して約3週間の潜伏期の後に、感染部位に硬いこり(初期硬結)や潰瘍(硬性下疳:こうせいげか)がみられる。これらの症状は主に陰部に現れ、2~3週間で消退する。
	II期 I期の後、約3ヶ月を経過すると病原体が血流によって全身へ広がり、性器以外の皮膚や粘膜にも発疹等の症状が現れる。
(早期と晩期の間に、いったん症状が消える)	
晩期	感染してから3年以上経過すると、ゴム腫・心血管症状・神経症状などが出現する場合がある。現在では、早期から抗生剤による治療を開始する例が多く、晩期顕性梅毒に進行することはまれである。



【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所（発生規模）	保健所（発生規模）
水痘	大館(1.25)	-

■ 注意報・警報の定義

【注意報・警報の定義】

- 1) 注意報：流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある（終息していない）ことを示します。
- 2) 警報：大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報	警報		対象疾患	注意報	警報	
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		